

小学校「図画工作」における学習評価

小学校図画工作科においては、造形遊びをする活動では、「A表現」(1) ア、(2) ア、〔共通事項〕(1) ア、(1) イを、絵や立体、工作に表す活動では、「A表現」(1) イ、(2) イ、〔共通事項〕(1) ア、(1) イを、鑑賞する活動では「B鑑賞」(1) ア、〔共通事項〕(1) ア、(1) イを指導する。

造形遊びをする活動と、鑑賞する活動を関連付けて指導する場合は、「A表現」(1) ア、(2) ア、「B鑑賞」(1) ア、〔共通事項〕(1) ア、(1) イを指導し、絵や立体、工作に表す活動と、鑑賞する活動を関連付けて指導する場合は、「A表現」(1) イ、(2) イ、「B鑑賞」(1) ア、〔共通事項〕(1) ア、(1) イを指導する。

図画工作科では、これらの内容を題材として児童に提示し、資質・能力の育成を目指すことになる。それには、まず題材の目標を設定し、次に題材の評価規準を作成することが大切である。

そこで、まず題材の目標の設定について例を基に説明し、次に題材の評価規準の作成のポイントを示す。ここでは、以下の題材を例として、その評価例を示す。

第3学年「絵や立体、工作に表す」

「のこぎりザクザク生まれる形」

① 題材の目標を作成する

学習指導要領の目標や内容、学習指導要領解説、児童の実態、前題材までの学習状況等を踏まえて、題材の目標を作成し設定する。

題材の目標の作成手順

<その題材で指導する事項を学習指導要領で確認する。>

学習指導要領の「学年の目標」「内容」や学習指導要領解説等を基に、指導することを確認する。「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」は「内容」を参考にし、「学びに向かう力、人間性等」は、学年の目標③を参考にする。

<題材に即してどのような内容が当てはまるか考える。それを踏まえ、書き換えたり削除したりする。>

(※学習指導要領で示している「学年の目標」や「内容」は、2年間を通して実現することを目指すものであることから、その題材では指導しない内容が含まれていることも考えられるため。)

それぞれの指導事項の「造形遊びをする活動を通して」「絵や立体、工作に表す活動を通して」「身の回りの作品などを鑑賞する活動を通して」などは、内容のまとまりを示すものなので削除する。文末の「こと」も削除する。その上で、「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」は「内容」を、「学びに向かう力、人間性等」は学年の目標③を参考にし、書き換えたり削除したりする。

このことを踏まえて、本題材の「題材の目標」を以下のように設定することができる。

- (1) ・自分の感覚や行為を通して、形や色などの組合せによる感じなどが分かる。
 - ・木やのこぎりを適切に扱うとともに、前学年までの木や接着剤などについての経験を生かし、手や体全体を十分に働かせ、表したいことに合わせて表し方を工夫して表す。
- (2) ・木を切ったり組み合わせたりして感じたことや想像したことから、表したいことを見付け、形や色などを生かしながら、どのように表すかについて考える。
 - ・自分たちの作品の造形的なよさや面白さ、表したいこと、いろいろな表し方などについて、感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を広げる。
 - ・形や色などの組合せによる感じなどを基に、自分のイメージをもつ。

(3)・進んで木を切ったり組合せたりして立体に表す活動に取り組み、つくりだす喜びを味わうとともに、形や色などに関わり楽しく豊かな生活を創造しようとする態度を養う。

② 題材の評価規準を作成する

題材の評価規準の作成は、内容のまとまりごとの評価規準から作成する方法と、内容のまとまりごとの評価規準を踏まえ、題材の目標から作成する方法が考えられる。どちらの方法でも、評価規準はほぼ同じ内容になる。

<内容のまとまりごとの評価規準を踏まえ、題材の目標から作成する方法>

(1) 知識・技能

- 文末は、学習の状況の評価することを踏まえて「～している」とする。

(2) 思考・判断・表現

- 「思考・判断・表現」は、〔共通事項〕(1)イに続けて「A表現」(1)アまたは〔共通事項〕(1)イに続けて「B鑑賞」(1)アを示し、「自分のイメージをもつ」を「自分のイメージをもちながら、」とする。ただし、「～しながら、～しながら」と続く文章になる場合、自分のイメージをもちながら発想や構想をしたり、鑑賞したりするということを踏まえつつ、「自分のイメージをもち、」とすることも考えられる。
- 文末は、学習の状況の評価することを踏まえて「～している」とする。

(3) 主体的に学習に取り組む態度

- 「主体的に学習に取り組む態度」は、「学びに向かう力、人間性等」から、観点別に学習状況の評価するものだけを示す。具体的には、低学年の「形や色などに関わり楽しい生活を創造しようとする態度を養う」、中学年、高学年の「形や色などに関わり楽しく豊かな生活を創造しようとする態度を養う」は、個人内評価とするため削除する。「活動」を「学習活動」とする。文末は、学習の状況の評価することや児童の意志的な側面も評価することから「～しようとしている」とする。

<内容のまとまりごとの評価規準から作成する方法>

(1) 知識・技能

「知識」

- 全ての題材において、低学年の「形や色など」、中学年の「形や色などの感じ」、高学年の「形や色などの造形的な特徴」については、指導計画の作成と内容の取扱い2(3)「〔共通事項〕のアの指導」を参考にして、題材に即して具体的に示すことが考えられる。
- 全ての題材において、「自分の感覚や行為を通して」については、題材に即して具体的に示すことが考えられる。

「技能」

- 全ての題材において、全学年の「材料や用具」、中学年、高学年の「前学年までの材料や用具」については、指導計画の作成と内容の取扱い2(6)「材料や用具」を参考にして、題材に即して具体的に示す。

(2) 思考・判断・表現

- 造形遊びをする活動における、低学年の「身近な自然物や人工の材料の形や色など」、中学年の「身近な材料や場所など」、高学年の「材料や場所、空間などの特徴」については、指導計画の作成と内容の取扱い2(6)「材料や用具」などを参考にして、題材に即して具体的に示す。
- 絵や立体、工作に表す活動における、低学年の「感じたこと、想像したこと」、中学年の「感じたこと、想像したこと、見たこと」、高学年の「感じたこと、想像したこと、見たこと、伝え合いたいこと」については、題材に即して選択する。さらに具体的に示す。
- 鑑賞する活動における、低学年の「自分たちの作品や身近な材料など」、中学年の「自分たちの作品や身近な美術作品、製作の過程など」、高学年の「自分たちの作品、我が国や諸外国の親しみのある美術作品、生活の中の造形など」は、題材に即して選択する。さらに具体的に示すことも考えられる。
- 全ての題材において、低学年の「形や色など」、中学年の「形や色などの感じ」、高学年の「形や色など

の造形的な特徴」については、指導計画の作成と内容の取扱い2(3)「[共通事項] のアの指導」を参考にし、題材に即して具体的に示すことが考えられる。

(3) 主体的に学習に取り組む態度

○ 題材に即して「表現する活動」や「鑑賞する活動」を具体的に示す。

このことを踏まえて、本単元の「題材の評価規準」を以下のように設定することができる。

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> 自分の感覚や行為を通して、形や色などの組合せによる感じなどが分かっている。(知識) 木のこぎりを適切に扱うとともに、前学年までの木や接着剤などについて経験を生かし、手や体全体を十分に働かせ、表したいことに合わせて表し方を工夫して表している。(技能) 	<ul style="list-style-type: none"> 形や色などの組合せによる感じなどを基に、自分のイメージをもちながら、木を切ったり組み合わせたりして感じたことや想像したことから、表したいことを見付け、形や色などを生かしながら、どのように表すかについて考えている。(発想や構想) 形や色などの組合せによる感じなどを基に、自分のイメージをもちながら、自分たちの作品の造形的なよさや面白さ、表したいこと、いろいろな表し方などについて、感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を広げている。(鑑賞) 	<ul style="list-style-type: none"> つくりだす喜びを味わい進んで木を切ったり組み合わせたりして立体に表す学習活動に取り組もうとしている。

③ 指導と評価の計画を作成する

観点別学習状況を記録に残す場面等を精選するためには、題材のまとまりの中で適切に評価を実施できるように、指導と評価の計画を立てる段階から、計画的に評価の時期や評価方法等を考えておくことが非常に重要であり、以下のとおり参考となるような「指導と評価の計画」を作成した。

なお、日々の授業の中で児童の学習状況を適宜把握して指導の改善に生かすことは非常に重要であるため、児童の学習状況を記録に残す場面以外においても、教師が児童の学習状況を確認する必要がある。

時	主たる学習活動	評価の観点	評価方法
1 2	<ul style="list-style-type: none"> のこぎりの使い方を知り、木をいろいろな長さや形に工夫して切る。 のこぎりを適切に扱う。 	○ 技能	
3 4	<ul style="list-style-type: none"> 切った木(木片)を並べたり組み合わせたりしながら、表したいことを見付ける。 木を切って新しい木片を組み合わせるなどしながら、どのように表すかについて考える。 	◎◎ 思考・判断・表現(発想や構想)	観察 対話
5	<ul style="list-style-type: none"> さらに切ったり並べたり組み合わせたりして、表したいことに合わせて表し方を工夫して表す。 作品カードに自分の作品のよさや面白さ、表し方の工夫などについて書く。 	◎知識 ◎技能	観察 対話 作品
6	<ul style="list-style-type: none"> 自分たちの作品を鑑賞し、友人と感じ取ったり考えたりしたことを話し合い、自分の見方や感じ方を広げる。 	◎ 思考・判断・表現(鑑賞) ◎ 主体的に学習に取り組む態度	観察 対話 作品 作品カード

○…授業の中で評価規準を通して、生徒の学習の実現状況を見取り、生徒の学習の改善や、教師の指導の改善につなげるために用いる「題材の評価規準」を示す。

◎…題材の観点別学習状況の評価の総括に用いる「題材の評価規準」(授業内での評価を再確認するための評価も含む)を示す。

④ 実際の指導及び評価

本題材は、まず、児童は、思い思いに木をのこぎりで切り、並べたり組合せたりする。これまでの経験を生かしながら、手ごたえのある材料や用具に向かい「技能」を働かせる。そこから「思考力、判断力、表現力等（発想や構想）」を働かせて、自分の表したいことを次第に見付けていく。そして、どのように表すかについて考え、さらに「技能」を働かせ、表したいことを、表し方を工夫して表していく。このような学習活動であることを踏まえて、本題材では「技能」に重点をおいた評価を行うことにした。また、6時間の題材で終末段階に鑑賞の場面も設定していることから、鑑賞の活動における「思考力、判断力、表現力等」についても評価することにした。「知識」については、主に技能を働かせる場面で評価することにした。そして、これらの学習に主体的に取り組んでいるかどうか全体を通して評価することにした。これらのことを基に題材の評価規準を設定し、評価時期や評価方法に配慮しながら「指導と評価の計画」を作成した。

⑤ 観点ごとに評価を総括する

総括では、「知識・技能」は「知識」と「技能」を、「思考・判断・表現」は「思考・判断・表現（発想や構想）」と「思考・判断・表現（鑑賞）」を考え合わせて総括することになる。

その際に、年間指導計画上の題材の位置付けを考慮する必要がある。例えば、本題材の場合、「技能」は重点的に指導する題材であること、「思考・判断・表現」については、「思考・判断・表現（発想や構想）」を中心に評価したことから、総括においても、基本的にはこの視点を基に行っていく。

例えば、〇〇さんは「知識」はB、「技能」はAであり、総括としては「知識・技能」はAとしている。△△さんは「思考・判断・表現（発想や構想）」A、「思考・判断・表現（鑑賞）」Bであり、総括としては「思考・判断・表現」はAとしている。

しかし、総括においては、基本的な総括の方針を重視しながらも実際の児童の活動の内容に即して評価を行うことも大切である。例えば、□□さんは、「思考・判断・表現（発想や構想）」はC、「思考・判断・表現（鑑賞）」はAであるが、鑑賞の際に友人の表現の発想や構想したことについて、感じ取ったり考えたりし、さらに次はこんなことを表したいなど話している姿や作品カードへの記述が見られたことから「思考・判断・表現」をBと総括することにした。□□さんに対しては、今後実施する他の題材において、表したいことを見付ける場面で、友人の活動に目を向けるように指導したり、鑑賞の場面で友人の作品のよさや面白さを感じ取ることができたことなどを価値付け、発想や構想する学習に主体的に取り組もうとするようにしたりすることが重要である。

題材によっては、本題材のように評価する資質・能力の重点化をせずに、観点別学習評価を行う場合もある。その際は、記録に残す評価の回数に応じて総括するなど、あらかじめ基準を決めておくことが大切である。

<参考資料>

『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料(小学校、中学校) (国立教育政策研究所)